

# ともにいきいき暮らそう 男性にとっての 男女共同参画

## 特集

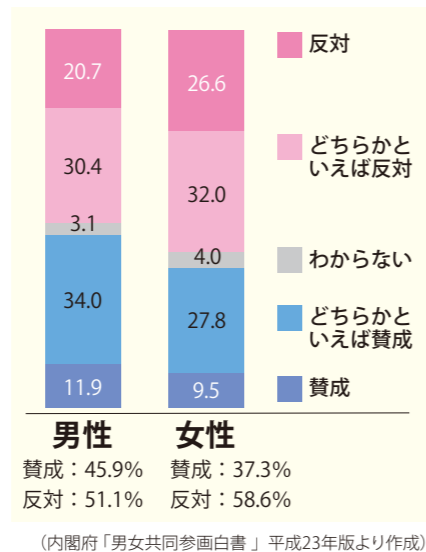
いま、終身雇用が崩れ、経済が低迷するなか  
男は仕事、家族を養い、弱音をはかない…など  
従来から求められてきた男性像では  
生きづらい時代を迎えています。  
これまで男女共同参画に関する多くの問題は、  
女性の視点で語られてきました。  
そこで今号では、男性側の視点から  
男女共同参画の現状や課題などに  
スポットを当てるとともに、  
男性にとっていきいきと暮らせる社会  
について考えます。



### 男性に強い 固定的性別役割分担意識

男女共同参画社会を築いていくうえで大きな壁となっているのが、社会の中で形成されてきた「男は仕事、女は家庭」といった固定的性別役割分担意識です。近年、時代の変化とともに解消されつつありますが、内閣府の調査では男性の45・9%、女性の37・3%が固定的性別役割分担意識に賛成しており、男性に根強く残っていることがわかります(データ1)。

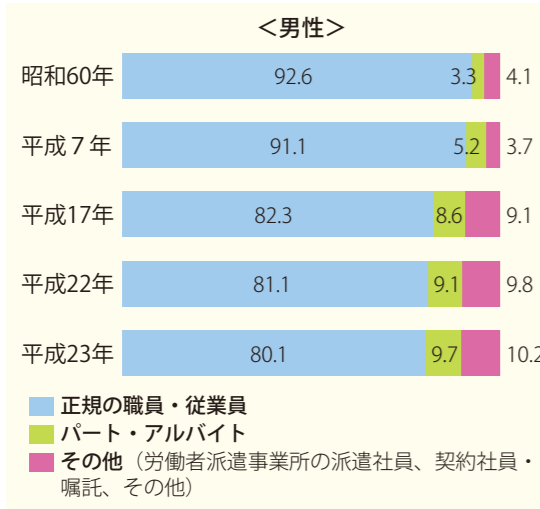
データ1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」といった考え方について



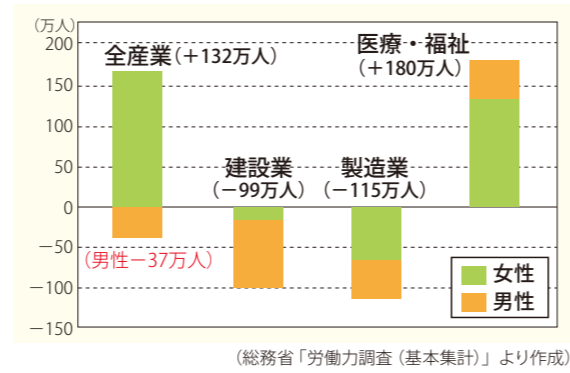
### 「男は仕事」は いまや厳しい時代

固定的性別役割分担意識は、女性の社会進出を阻む一方、男性の生き方も縛ってきたといえます。これまで大抵の男性は、社会に出れば終身雇用・年功序列賃金制度のもと、家族を養っていきけるだけの安定した仕事に就くことができました。そのため、「男は仕事」「家族を養うのが役目」という考えにとらわれている男性も多いのです。しかし、雇用環境の変化と

データ3 雇用形態別の雇用者(役員を除く)の構成割合の推移



データ2 男女別・産業別雇用者数の増減(平成14→22年)



をみても、平成14年から22年までの間に男性雇用者数は約37万人減少しています(データ2)。また、男性の非正社員の割合も年々上昇し、平成23年には約2割に達しています(データ3)。さらに、男性の完全失業率も、働き盛りの世代(25〜34歳では5・9%、34〜44歳では4・1%)では前年より上昇しています。

ともに男性一人の稼ぎで家計を支えるのが難しい時代となっています。年収は年々減少傾向にあり、平成23年度のサラリーマンの平均年収は503・8万円(前年比マイナス0・7%)で、過去に比べてまだまだ低い水準にあります。

男性も人間。弱音もはくと思う

強がることよりも、弱さを見せるほうが強いと思う

女性を守ってあげたいという意識があるので共感

人前ではそうありがたいが、時には弱音をはいたほうがよい

男は強くあるべき、弱音をはかない?

男として当然のこと

古い考え。弱くてよし、何も恥ずかしくない

誰でも気持ちが弱くなる時はある

個人差もあるし、女性のほうが強いと思う

そう思うが、収入が少なく家庭が持てない

現実には そうだと思う

今は正しいとは思わないが、そういう自覚は必要

「男の仕事」に家事も含まれると思う

私(58歳)の世代ではそれが当たり前

男は仕事、家族を養うのが役目?

責任はあると思うが、男性だけが背負えるものではない

昭和の考え。今の時代は違う

自営業のため共同で担っている

男女共同参画社会の現状について、西東京市の男性市民に伺いました(平成24年10月アンケート実施)。寄せられた意見の一部を紹介いたします。ご協力ありがとうございました。  
※なお、寄せられた意見は、今後の男女平等推進センターパブリックの事業企画などに生かさせていただきます。

男女共同参画アンケート

市民男性に聞き、ま